

平成26年産 夏秋野菜の需給・価格の実績

<概要>

1. 気象

- 7月は、北日本と東日本太平洋側では、梅雨前線の影響が小さく日照時間が多く、特に北日本太平洋側ではかなり多かった。また、平均気温は、北日本でかなり高く、東日本と沖縄・奄美では高かった。降水量については、台風8号の影響で沖縄・奄美では記録的な大雨となり、台風周辺の湿った南風などにより北日本や西日本では局地的に大雨となった。一方、東日本太平洋側では少なかった。
- 8月は、太平洋高気圧の張り出しが弱く、湿った気流の影響により、日照時間は北日本日本海側や沖縄・奄美では少なく、東日本や西日本ではかなり少なく、西日本太平洋側では平年比54%で、1946年の統計開始以来8月としては最も少なかった。また、平均気温は西日本では低く、その他は平年並みだった。降雨量については、台風11号や12号が相次いで上陸するなど各地で大雨(平成26年8月豪雨)となり、西日本太平洋側では、月降水量は平年比301%で、1946年統計開始以来8月としては最も多かった。
- 9月は、前線に近かった九州や四国を除き日照時間はかなり多かった。また、平均気温は、東日本から西日本にかけ気温が低く、東日本では5年ぶり、西日本では8年ぶりの低温となった。一方、沖縄・奄美は1946年統計開始以来9月としては最も高い気温の記録を更新した。降水量については、全国的に少なかった。

2. 生産・供給

- 夏秋キャベツは、9月までは天候が不安定であったこともあり入荷が激しく変動し、概ね前年を下回る旬が多かった。特に、主産地である群馬県産は台風、長雨及び気温の上昇などの影響により、生育の停滞や収穫遅れなどにより一時的に大幅に減少する時期もあった。
- 夏だいこんは、8月までは天候不順の影響もあった旬もあり前年並みかつ平年並であったが、9月は順調に生育したことから前年を大幅に上回った。
- たまねぎは、7月は佐賀県産が豊作であった前年を下回ったが、8月以降主産地である北海道産において、概ね順調に生育したことから前年を上回った。
- 秋にんじんは、主産地である北海道産の生育が順調であったことから、期間全体として前年を上回った。
- 夏はくさいは、期間全体で見ると概ね前年並みで推移した。8月中旬以降は、主産地の長野県産が長雨の影響や品種の切り替え時期において一時的に前年を下回った時期もあったが、9月以降は順調に入荷したことから前年並みとなった。
- 夏秋レタスは、10月を除いて主産地である長野県産の天候が不安定であったことによる病害の発生などから前年を下回る旬が多く、期間全体では前年をやや下回った。

3. 需要・価格

- 夏秋キャベツは、8月以降天候が不安定で入荷量が伸びなかったこともあり、8月～9月は前年を大幅に上回った。
- 夏だいこんは、7月は気温上昇による消費低迷などにより前年を大幅に下回ったが、8月～9月上旬にかけて他品目の高値基調の影響などもあり前年を上回った。
- たまねぎは、9月上旬までは需要が旺盛なこともあり前年を大幅に上回ったが、北海道産の出荷が潤沢であったことから9月中旬以降、前年を下回った。
- 秋にんじんは、入荷量が潤沢である一方、需要の伸び悩みがあったことから、期間中前年を大きく下回った。
- 夏はくさいは、8月上旬まで前年をかなり下回っていたが、その後、入荷が回復した後も、それ以前の天候不順等の影響もあり前年及び平年とも大幅に上回った。
- 夏秋レタスは、7月と10月を除いて、主産地における長雨などの天候不順の影響により入荷が減少したことから前年を大幅に上回った。

1. 平成26年産夏秋キャベツの需給・価格の実績

	前回の委員会(26.7.11)での見通し	実績(10月下旬時点)
夏秋キャベツ (7～10月)	(供給) ● 作付面積は、前年並みの見込み。長野は微増。 ● 生育状況は、群馬は順調に推移、長野は干ばつ・低温の影響でやや小玉傾向であったが6月の降雨で回復傾向、北海道は6月の長雨の影響で一部の地区で定植が遅れ、また全体的に生育がやや遅れている。 ● 出荷量は、期間を通じて安定した出荷が見込まれ、前年をわずかに上回る見込み。 (需要・価格) ● 価格は、前年、群馬等が生育の停滞や降雨の影響で入荷量が少なく高めで推移したのに対し、本年は順調な出荷が見込まれるため、期間を通じて前年を下回る見込み。 ● 加工・業務用は、常に一定の原料確保が必要となるため、相場が高い時でも市場から調達するが、市場価格が更に一定以上高くなった場合は、中国からの輸入量が増加することが見られる。	(入荷量) ● 7月は、群馬県産や岩手産が、気温の上昇と降雨により生育はおおむね順調であったことから平年を上回り、潤沢であった前年並みとなった。 ● 8月は、岩手県産は概ね順調であったものの、群馬県産が台風や長雨の影響により収穫遅れがあったことから平年及び前年をやや下回った。 ● 9月は、群馬県産や岩手県産において、長雨などの影響により生育が停滞気味となったことから、下旬にかけて前年を大きく下回った。 ● 10月は、台風の影響もほとんどなく、小玉傾向で少なかった前年をかなり上回った。 ● 期間全体としては、前年をわずかに上回り、平年並みとなった。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:102%) (価格) ● 7月は、上旬から中旬にかけ需要が鈍かったこともあり、前年を大幅に下回った。 ● 8月は、天候不順により入荷量が減少したことから、中旬以降高値基調となり、前年を大幅に上回った。 ● 9月は、長雨、低温等の影響に加え、加工業務用の需要も高かったこともあり、前年を大幅に上回った。 ● 10月は、好天により出荷量も増加したことから前年をかなり下回った。 ● 期間全体としては、前年をやや上回り、平年を大幅に上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:105%)

(参考1) 平成26年産夏秋キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

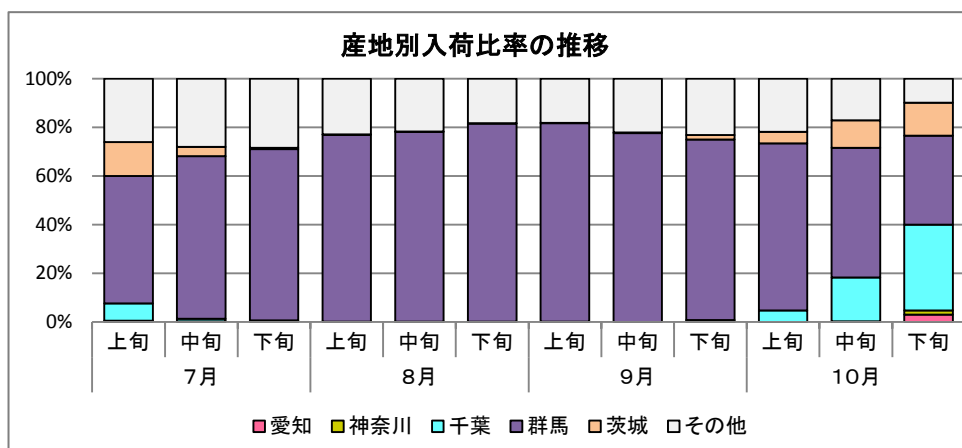
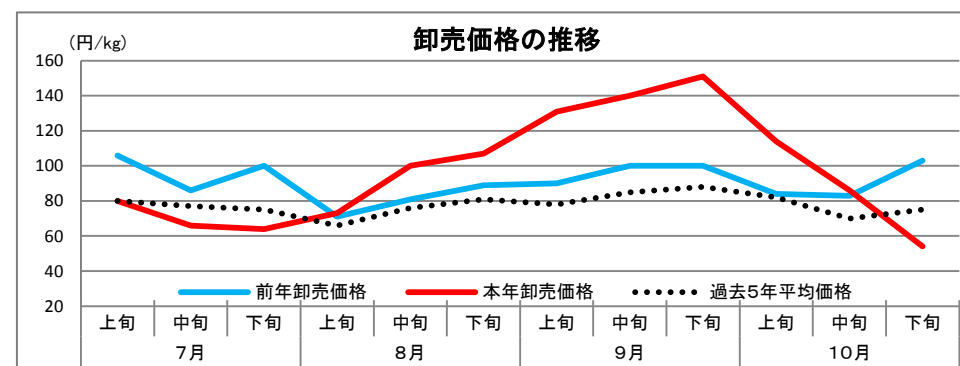
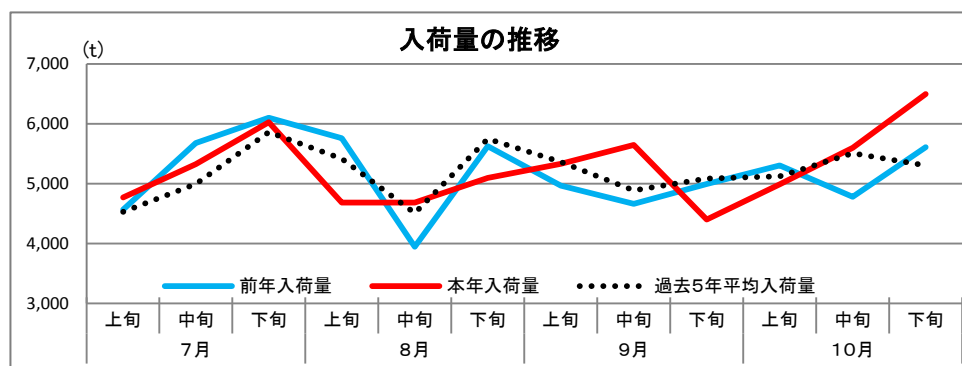
入 荷 量 対 比 (%)

	7 月			8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	105	94	99	81	119	91	107	121	88	94	117	116	102
	99			94			105			109			
過去 5 年 平均比	105	107	103	86	104	89	99	116	86	97	102	122	101
	105			92			100			107			

卸 売 価 格 対 比 (%)

	7 月			8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	75	77	64	103	123	120	146	140	151	136	104	52	105
	71			118			144			91			
過去 5 年 平均比	100	86	85	111	132	132	168	165	172	139	123	72	123
	90			127			167			109			

(参考2) 平成26年産夏秋キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

2. 平成26年産夏だいこんの需給・価格の実績

	前回の委員会(26.7.11)での見通し	実績(9月下旬時点)
夏だいこん (7～9月)	(供給) ● 作付面積は、前年並みの見込み。青森は微増。 ● 生育状況は、北海道は干ばつの影響で一部、生育遅れが見られたが6月の降雨で回復傾向、青森は春まきは順調に推移、初夏まきの播種時期にややバラつきが見られる、岐阜は順調に推移している。 ● 出荷量は、期間を通じて安定した出荷が見込まれ、少なかった前年をかなり上回る見込み。6月の降雨等の影響で8月に一時、出荷の谷間が出来る可能性がある。 (需要・価格) ● 価格は、前年は天候の影響から入荷量が少なめとなり、高めで推移したが、本年は順調な出荷が見込まれるため、期間を通じて前年を下回る見込み。 ● 加工・業務用は、冬場より需要は減少するものの、加工用のニーズは一定量あり、今後も継続することが見込まれる。	(入荷量) ● 7月は、北海道産において干ばつの影響や高温による生育不良などが懸念されたが、順調に生育したことから前年をやや上回った。 ● 8月上旬は、北海道産において長雨の影響で播種ができなかったことから出荷の谷間となり減少したものの、中下旬は天候に恵まれ生育が回復したことから前年を上回り、8月としては前年並みだった。 ● 9月は、北海道産において長雨による播種の遅れた分と出荷が重なったこと、青森県産が、長雨の影響などもなく順調であったことから前年を大幅に上回った。 ● 期間全体としては、前年をかなり上回り、平年をやや上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:106%) (価格) ● 7月は、気温の上昇による消費低迷で荷動きも悪くなり、前年を大幅に下回った。 ● 8月は、上旬は前年をやや上回り、中旬以降は他の品目の高値基調の影響により前年を大幅に上回った。 ● 9月は、上旬までは高値であったが入荷も増えたこともあり、中旬以降下げに転じて、高値であった前年をやや下回ったものの、平年を大幅に上回った。 ● 期間全体としては、前年をやや下回るも、平年を大幅に上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:98%)

(参考1) 平成26年産夏だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

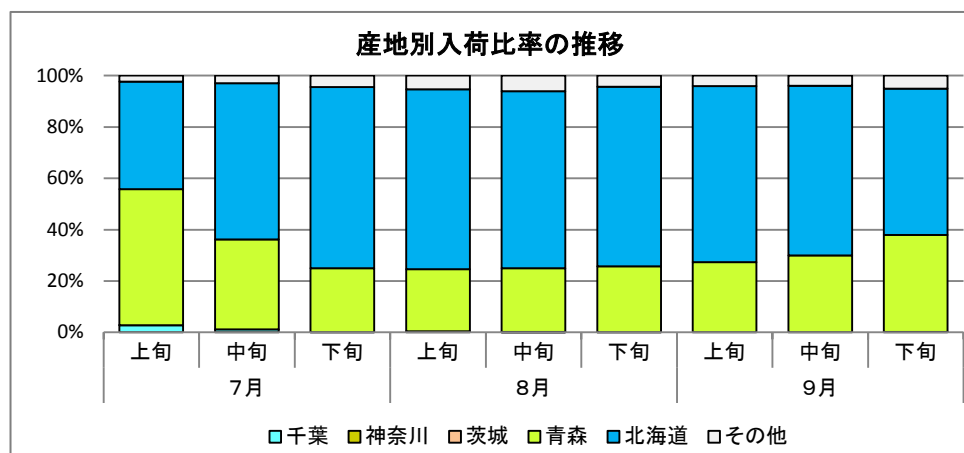
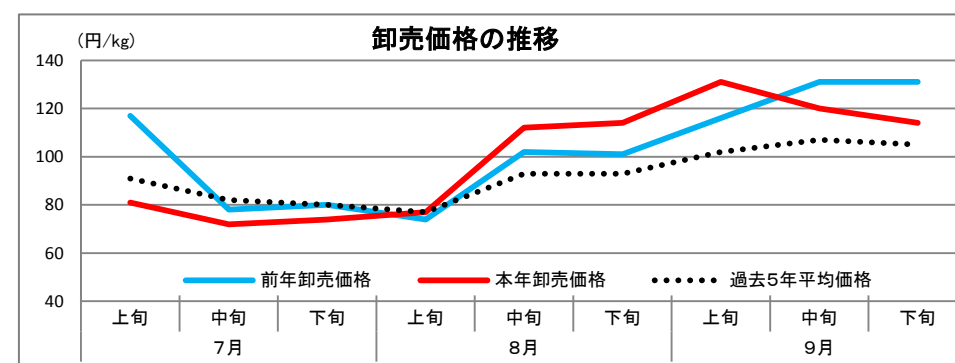
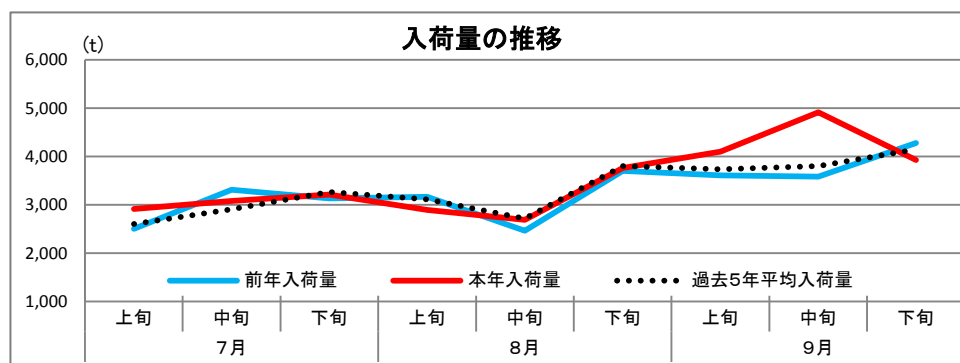
入 荷 量 対 比 (%)

	7 月			8 月			9 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	116	93	103	91	109	102	114	137	92	106
	103			100			113			
過去 5 年 平均比	112	106	98	93	99	99	110	129	95	105
	105			97			111			

卸 売 価 格 対 比 (%)

	7 月			8 月			9 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	69	92	93	104	110	113	113	92	87	98
	84			111			97			
過去 5 年 平均比	89	88	93	100	120	123	128	112	109	110
	90			116			116			

(参考2) 平成26年産夏だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

3. 平成26年産たまねぎの需給・価格の実績

	前回の委員会(26.7.11)での見通し	実績(10月下旬時点)
たまねぎ (7～10月)	(供給) ● 作付面積は、前年並みの見込み。佐賀は作付けが減少。 ● 生育状況は、北海道は生育の停滞等があったものの回復し、7月中旬まではおおむね順調に推移、兵庫は玉肥大が順調で平成23年並みの豊作の見込み。 ● 出荷量は、府県産全体では昨年並みの見込み。佐賀は前進出荷となっており、7月以降はやや少なめの見込み。出荷シェアの高い北海道は、不作であった前年を大幅に上回る見込み。 (需要・価格) ● 価格は、順調な出荷が見込まれることから、7月は府県産が豊作で入荷量が多く安かった前年並み、8月以降は、北海道産が小玉傾向で入荷量が減少し高めで推移した前年を下回る見込み。 ● 加工・業務用は、仕入れ単価の抑制を求められる中で、剥きたまねぎは中国産に一定の需要があり、国内価格が下がっても国内産へのシフトは限定的と見られる。	(入荷量) ● 7月は、貯蔵ものの入荷となる佐賀産が、豊作だった前年より少なめとなったことから、前年をかなり下回った。 ● 8月上旬は、北海道産が7月の干ばつの影響もあり前年をかなり下回ったが、その後は影響もなく順調な出荷となったことから前年をやや上回った。 ● 9月は、北海道産において降雨などの影響で収穫作業の遅れもあり下旬は前年をかなり下回ったものの、前年をわずかに上回った。 ● 10月は、小玉傾向で少なかった前年をかなり上回った。 ● 期間全体としては、前年をわずかに上回り、平年をかなり上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:102%) (価格) ● 7月は、需要も活発であったことから、月を通して高値もちあいとなり、安かった前年を大幅に上回った。 ● 8月は、入荷は前年をやや上回ったものの、生鮮野菜全体が高値基調となったことから、前年を大幅に上回った。 ● 9月は、上旬までは前年をかなり上回ったが、中旬以降は下げ基調となったことから、月全体では北海道産の不作で高かった前年をやや下回った。 ● 10月は、出荷も順調であったことから、高値であった前年を大幅に下回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年ともにやや上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比 104%)

(参考1) 平成26年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

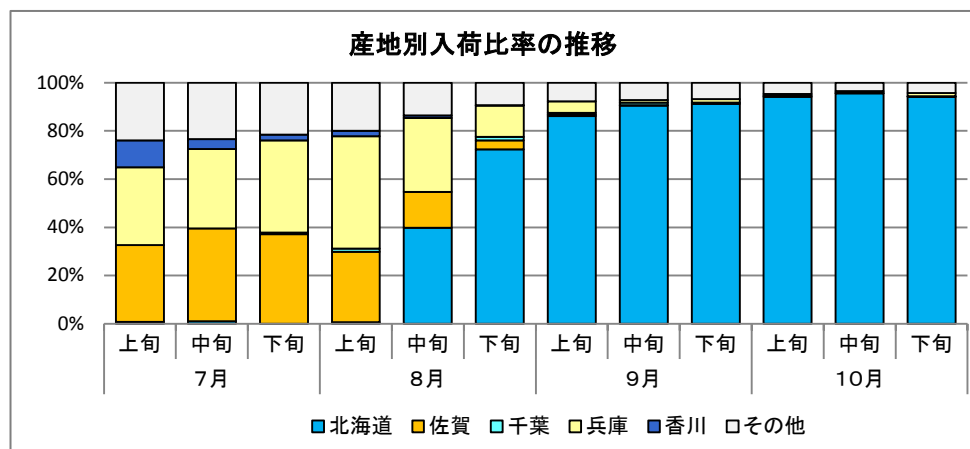
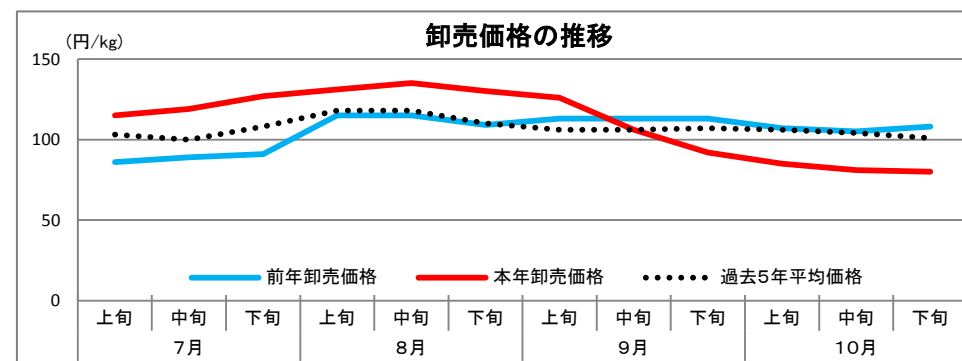
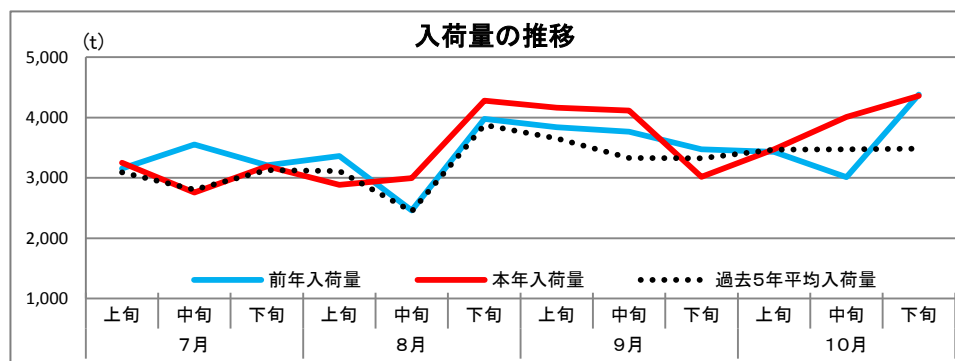
入 荷 量 対 比 (%)

	7 月			8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	103	78	100	86	122	108	108	109	87	101	133	100	102
	93			104			102			109			
過去 5 年 平均比	105	98	102	93	123	110	114	124	91	100	115	125	108
	102			108			110			114			

卸 売 価 格 対 比 (%)

	7 月			8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	134	134	140	114	117	119	112	94	81	79	77	74	104
	135			118			97			77			
過去 5 年 平均比	112	119	118	111	114	118	119	100	86	80	78	79	103
	117			116			104			80			

(参考2) 平成26年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

4. 平成26年産秋にんじんの需給・価格の実績

	前回の委員会(26.7.11)での見通し	実績(10月下旬時点)
秋にんじん (8～10月)	(供給) ● 作付面積は、前年をやや上回る見込み。 ● 生育状況は、北海道は干ばつの影響が心配されたが、おおむね順調に推移、青森は春まきはおおむね順調、夏まきは6月の降雨の影響で一部の地区で播種が遅れたことから出荷のピークが遅れる見込み。 ● 出荷量は、期間を通じては前年をやや上回る見込み。なお、9月下旬以降に一時、出荷の谷間が出来る可能性があるものの、ほぼ前年並みの見込み。 (需要・価格) ● 価格は、順調な出荷となり、8月は産地の切り替わり時期となり入荷量が少なく高かった前年を下回り、9月以降は入荷量が順調となり平年並みとなった前年並みの見込み。 ● 加工・業務用は、一部では中国産から国内産へのシフトがあるものの、歩留まり等の関係もあり中国からの一定量の輸入は継続する。	(入荷量) ● 8月は、北海道産は、干ばつの影響で小ぶりの出荷となったが、旬を追うごとに生育が回復し、入荷量が増加したことから前年をかなり上回った。 ● 9月は、北海道産が8月の長雨の影響もなく生育が順調であったことから、前年をかなり上回った。 ● 10月は、台風の影響もなく、病害虫の発生も見られずに生育も順調であったことから、前年をかなり上回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年をかなり上回った。 (8～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:109%) (価格) ● 8月は、北海道産の入荷量が多かったことから、前年を大幅に下回った。 ● 9月以降は、順調な入荷量であったこと、当初の想定に比べ秋口の需要も伸びなかったことから前年をかなり下回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年を大幅に下回った。 (8～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:78%)

(参考1) 平成26年産秋にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

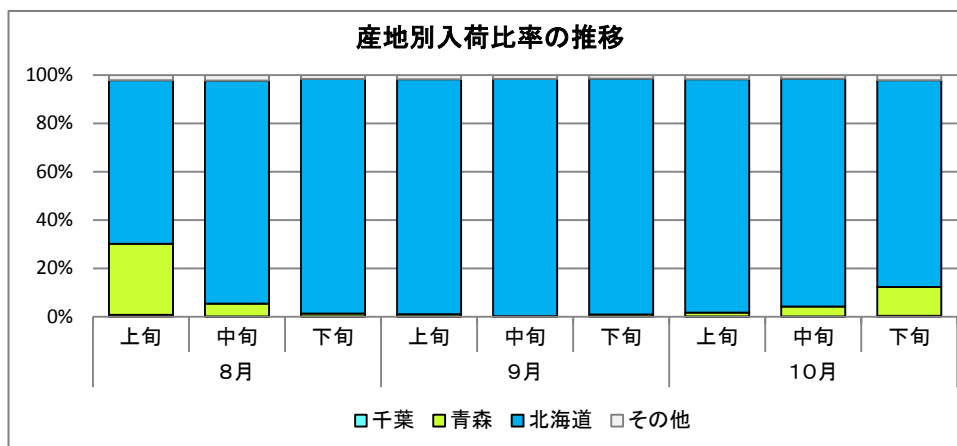
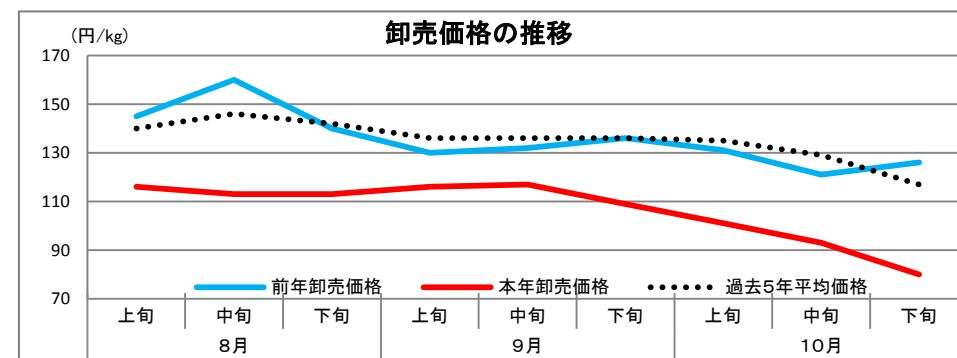
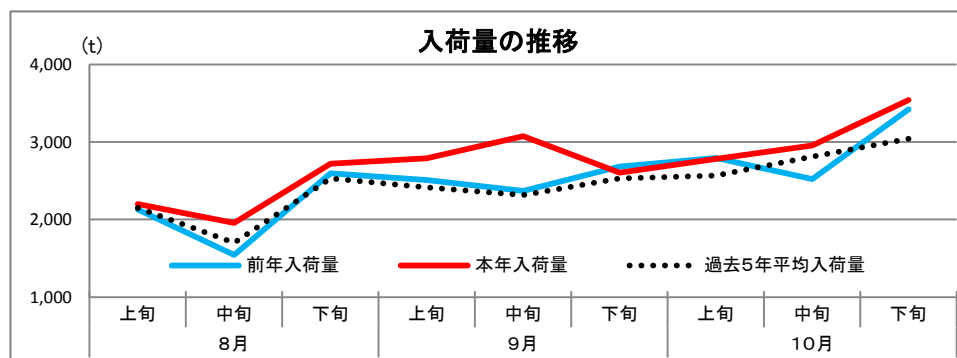
入 荷 量 対 比 (%)

	8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
	103	127	105	111	130	97	99	117	104	
前年比	110			112			106			109
過去5年平均比	102	115	107	116	133	103	108	105	116	112
	108			117			110			

卸 売 価 格 対 比 (%)

	8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
	80	71	81	89	89	80	77	77	63	
前年比	78			86			71			78
過去5年平均比	83	77	80	85	86	80	75	72	68	78
	80			84			71			

(参考2) 平成26年産秋にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

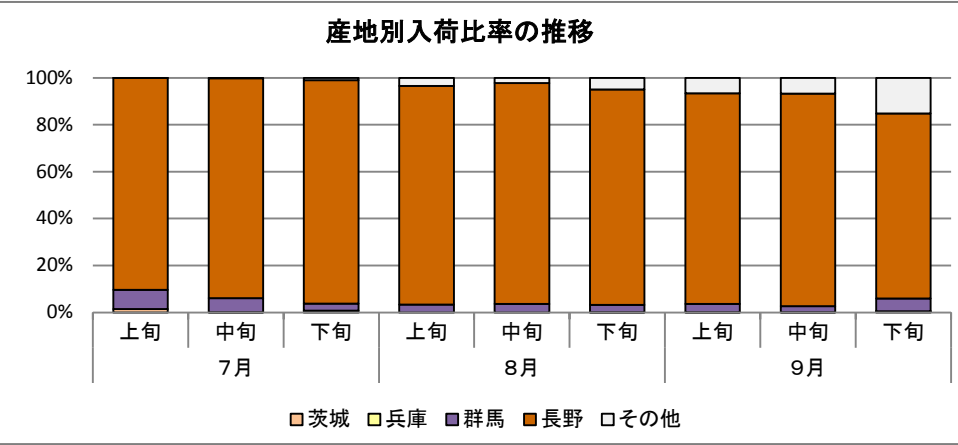
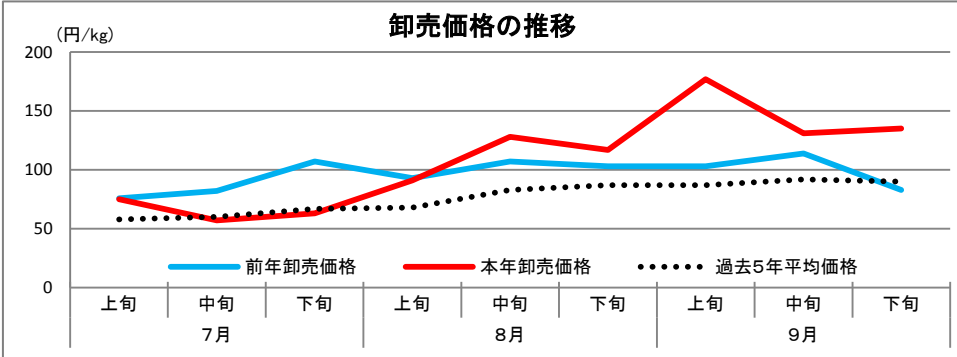
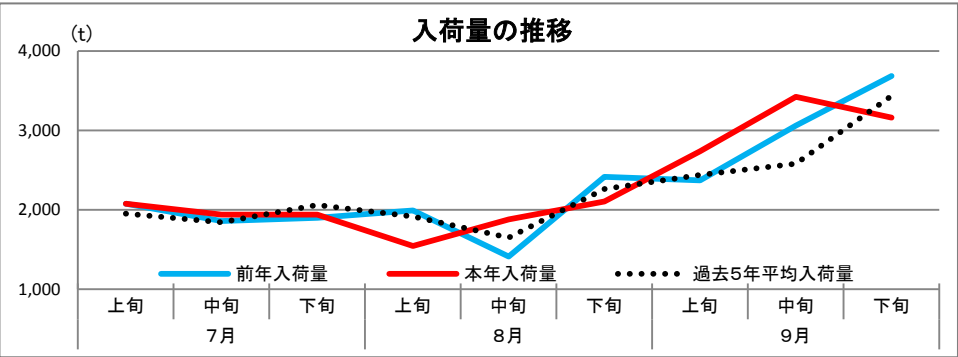
5. 平成26年産夏はくさいの需給・価格の実績

	前回の委員会(26.7.11)での見通し	実績(9月下旬時点)
夏はくさい (7～9月)	(供給) ● 作付面積は、前年をやや上回る見込み。長野は秋作の作付けが微増。 ● 生育状況は、長野は大玉傾向、北海道はおおむね順調に推移、群馬は順調に推移しているが、6月下旬の降雹により一部、品質の低下が見られる。 ● 出荷量は、期間を通じては前年をわずかに上回る見込み。長野の秋作の作付けが増加していることから9月の出荷量が多くなる見込み。 (需要・価格) ● 価格は、前年は加工・業務用原料が市場から調達されたことにより高い水準で推移したが、本年は順調な出荷が見込まれることから、期間を通じて前年を下回る見込み。 ● 加工・業務用は、この時期は漬物や中華系の外食が需要の中心。また、本年は前年が市場からの原料調達に苦労したことから契約取引の割合が高くなっている。	(入荷量) ● 7月は、長野県産において、中旬まではおおむね順調な入荷となり、下旬は品種の切り替えによる影響で少なくなったものの、月全体では前年をわずかに上回った。 ● 8月は、旬を追うごとに入荷量は増加し、中旬は前年を大幅に上回ったものの、台風後の長雨などの影響により入荷が減少したことから、月全体では前年をやや下回った。 ● 9月は、長野県産において長雨や曇天などの影響で生育の停滞があったものの、作付面積の増加している作型の出荷となったことから、前年をわずかに上回った。 ● 期間全体としては、前年同となり、平年をやや上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:100%) (価格) ● 7月は、6月下旬からの高値基調と入荷量の増加により中旬以降下げに転じ、前年を大幅に下回った。 ● 8月は、天候不良の影響により入荷が減少したことから前年をかなり上回った。 ● 9月は、上旬の前半は天候の影響から肥大不足等で入荷が減少し、価格は高騰した。中旬にかけて入荷が増え下げ基調となるも、下旬に再び入荷がかなり減少したことから、再び高値基調となり前年を大幅に上回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:119%)

(参考 1) 平成 2 6 年産夏はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去 5 年平均比 (前年・過去 5 年平均をそれぞれ 100 とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入 荷 量 対 比 (%)										卸 売 価 格 対 比 (%)											
	7 月			8 月			9 月			期間計		7 月			8 月			9 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	100	104	102	78	133	87	115	112	86	100	前年比	99	70	59	98	120	114	172	115	163	119
	102			95			102					75			112			147			
過去 5 年 平均比	106	105	94	81	114	93	112	133	92	103	過去 5 年 平均比	129	95	94	134	154	134	203	142	150	146
	102			95			110					106			141			164			

(参考 2) 平成 2 6 年産夏はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

6. 平成26年産の夏秋レタス需給・価格の実績

	前回の委員会(26.7.11)での見通し	実績(10月下旬時点)
夏秋レタス (6～10月)	(供給) ● 作付面積は、前年並みの見込み。 ● 生育状況は、長野は定植時の干ばつ、6月の低温・降雨の影響を受けていることから、今後の天候によって変動する可能性がある。群馬は順調となっているものの、長雨の影響により品質低下が一部で見られる、茨城は8月上旬に播種が開始される見込み。 ● 出荷量は、期間を通じては前年並みの見込み。 (需要・価格) ● 価格は、順調な出荷が見込まれることから、7月は少雨の影響で入荷量が安定せず高かった前年を下回り、8月は生育が回復し入荷量が多く安かった前年を上回り、9月以降は順調な入荷量があった前年並みの見込み。 ● 加工・業務用は、夏休みに入る7月下旬以降、ファミリーレストラン等の需要が増加することもあり、安定供給の観点から輸入による一定量の対応を予定しているところが見られる。	(入荷量) ● 6月は、長野県産において、適度な降雨もあり生育は順調であったが、多かった前年をやや下回った。 ● 7月は、長野県産において、曇天と気温上昇により中旬は一時的に大幅に減少したものの、下旬は回復し前年並みとなった。 ● 8月は、長野県産において、7月からの急激な気温上昇により一部で病害が発生したこともあり前年をかなり下回った。 ● 9月は、長野県産においては、長雨や日照不足による病害の発生とその後の低温の影響から、前年を大幅に下回った。 ● 10月は、好天により生育も回復して前年を大幅に上回った。 ● 期間全体としては、前年をやや下回ったが、ほぼ平年並みであった。 (6～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:95%) (価格) ● 6月は、入荷量が前年を下回ったこともあり、安かった前年を大幅に上回った。 ● 7月は、天候が不安定であったものの上昇傾向で推移し、中旬までは高かった前年をかなり下回ったものの、平年を上回った。下旬は前年が急激に下落したことから前年と平年を上回った。 ● 8月は、7月に引き続き、入荷量が減少したことから、前年を大幅に上回った。 ● 9月は、入荷量が伸びなかったことから、上旬は大幅な上げ基調で推移したが、中旬以降は低温等から消費も伸びず下げ基調となったものの、前年を大幅に上回った。 ● 10月は、入荷も多くなったことから、前年を大幅に下回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (6～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:119%)

(参考１) 平成２６年産夏秋レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去５年平均比（前年・過去５年平均をそれぞれ１００とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

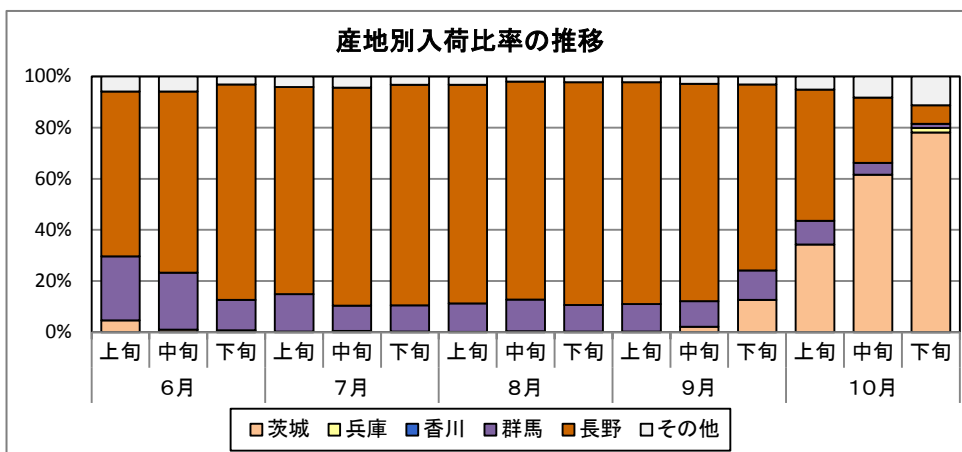
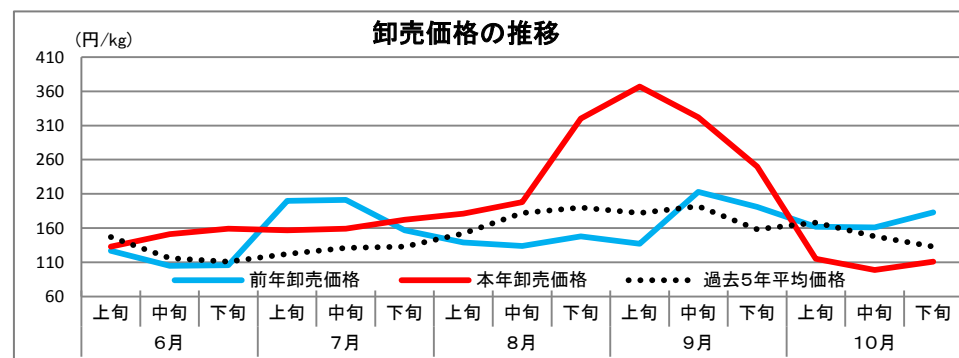
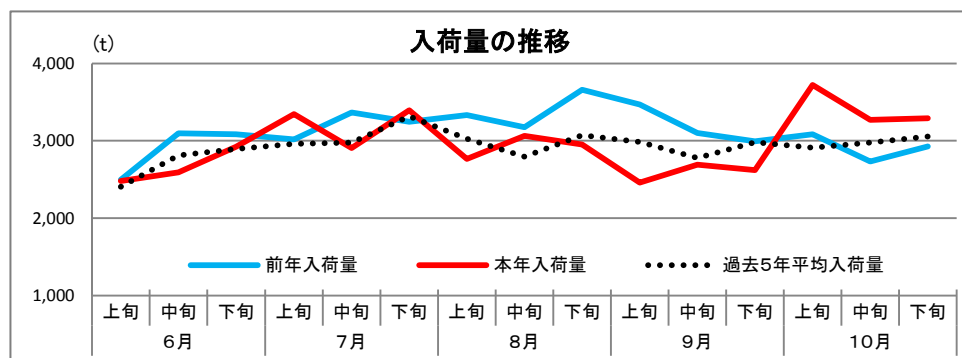
入 荷 量 対 比 (%)

	6 月			7 月			8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	99	84	95	111	86	105	83	96	81	71	87	88	121	120	113	95
	92			100			86			81			118			
過去 5 年 平均比	103	92	101	113	98	102	91	110	96	82	97	88	128	110	108	101
	99			104			98			89			115			

卸 売 価 格 対 比 (%)

	6 月			7 月			8 月			9 月			1 0 月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	105	144	150	79	79	110	130	148	216	268	151	131	71	61	61	119
	132			88			167			174			64			
過去 5 年 平均比	90	130	143	129	121	129	119	109	168	202	168	158	68	67	83	124
	120			126			134			176			72			

(参考２) 平成２６年産夏秋レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移（東京都中央卸売市場）



資料：東京青果物情報センター